

入院患者に忍び寄る「せん妄」とは？

「せん妄」という世間ではあまり馴染みのない言葉ですが、入院中の患者さんには、ときどきこの「せん妄」の症状がみられることがあります。今回は「せん妄」についてどんな特徴があるのか、どのような看護を行っているかをお伝えしたいと思います。

せん妄ってなんですか？

身体の異常やお薬の使用などが原因で発症する意識障害のことを言います。

主な症状

- 会話や行動に落ち着きがない
- 入院中でも家に居るなど場所がわからなくなる
- 点滴や酸素の管を自分で抜いてしまう
- まぼろしが見える ○怒りやすい ○涙もろい
- 昼夜逆転 ○動作が鈍くなる など

せん妄の原因には何がありますか？

せん妄になる原因としては、70歳以上、認知症、アルコール摂取量が多い、難聴、視力障害、痛みなどの症状、環境の変化、脳転移などの疾患、脱水などの身体不調、治療などがあります。

看護師さんは予防するためにどんなことをするんですか？

安心して穏やかに過ごせるよう努めます

- 言動を否定せず、ゆっくりと話を聴きます
- 室温調整や好きな写真を飾ったり、音楽をかけたりと、リラックスできる環境を調整します
- オンライン面会や電話を繋げたりと、家族などとの関りを増やすよう関わり、安心できる環境を提供するよう努めます
- 治療が原因の場合は医師と連携し治療の変更を検討します

今後も、せん妄対策チームは、せん妄に対する知識やケアの普及に努めます。